全国養護教諭連絡協議会　平成27年度 総会及び第17回学校保健連絡協議会

６月13日㈯、東京都のヒューリックホールにおいて、全国養護教諭連絡協議会の総会並びに「第17回学校保健連絡協議会」が開催されました。

午前の連絡協議会では、「学校におけるアレルギー疾患対応について」と題し、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課　健康教育企画室健康教育調査官岩崎信子氏の講演がありました。学校におけるアレルギー疾患対応資料（ＤＶＤ）エピペン（練習用）を活用した校内研修（シミュレーション研修）の必要性が話されました。午後には総会と各ブロック別協議会が行われ、新会長には木嶋晴代先生が承認されました。基本方針では、複数配置の要望の継続・瑞星や会報の発行・調査研究・研修会の実施等を行い資質向上を目指すとともに、教育職員としての養護教諭の専門性の発展を目指すことが提案され、承認されました。東北・北海道ブロック別協議会では、色覚の問題について話し合いがもたれ、さらに調査研究委員に本会の事務局次長熊谷郁子先生が選出され、２年間活動されることとなりました。

今後全養連の調査については皆様のご協力をお願いいたします。　（会長　谷村　純子）

第50回 東北地区養護教諭連絡協議会

８月４日㈫福島県文化センターにおいて、「第50回東北地区養護教諭連絡協議会」が東北学校保健大会に併せて開催されました。本会は、東北６県と仙台市の養護教諭研究団体で組織され、各県の活動状況や情報を交換しながら諸問題を協議する会です。

初めに、福島県の会長から震災後の状況説明、そして「各県に転出した子ども達に『福島の先生方』はあなた達のことを忘れないで、いつまでも応援していると伝えて欲しい」との挨拶がありました。

その後、昨年度及び本年度の会務、決算・予算の提案があり承認され、各県の現状や課題の報告がありました。

HPの作成や、世代交代による次の世代への継承のあり方が、どの県でも共通の課題でした。福島県からは、会員の年齢層が40代と50代で全体の60％を越える現状から、次世代の養護教諭への支援・継承のため、「後継者支援ボランティア事業」（一覧表を配布し、相談したい人は直接連絡して相談する等）の取り組みが紹介されました。

その他、各県の研究大会の持ち方・講師に関する情報交換は大変参考となるものでした。

次年度は、山形県での開催となります。

（副会長　細川喜美子）

平成27年度の新採用者22名をご紹介します

○小学校	**瀬田　杏樹**さん	盛岡市立津志田小学校
	髙橋　瑞季さん	奥州市立水沢小学校
	髙瀬　真優さん	釜石市立甲子小学校
	山下　千尋さん	大槌町立大槌小学校
	平野　詩織さん	宮古市立崎山小学校
	平泉　真依さん	山田町立大沢小学校
	長内　美貴さん	山田町立山田北小学校
	福士　実紀さん	山田町立大浦小学校
	久保田歌奈さん	岩泉町立門小学校
	吉田　慈さん	田野畑村立田野畑小学校
○中学校	**朝倉　光里**さん	葛巻町立小屋瀬中学校
	小林　結花さん	奥州市立江刺第一中学校
	畠山　有美さん	一関市立厳美中学校
	石川清也香さん	大船渡市立日頃市中学校
	髙橋　七生さん	宮古市立重茂中学校
	市原佳奈恵さん	宮古市立新里中学校
	石澤由香里さん	岩泉町立小川中学校
	伊藤　清子さん	田野畑村立田野畑中学校
○高等学校	**蒲生　真弓**さん	岩手県立高田高等学校
	佐倉のぞみさん	岩手県立釜石高等学校
	福士　優さん	岩手県立久慈高等学校
○特別支援学校	**阿部　暁絵**さん	岩手県立一関清明支援学校

「発行にあたりご執筆いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。」（広報部　工藤里香子・茶畑　悦子）

岩手県学校保健会養護教諭部会報

ようご

発行　岩手県学校保健会
養護教諭部会
編集　広報部
平成27年９月25日
http://www2.iwate-ed.jp/yougo/

あいさつ

会長　**谷村　純子**

日頃より、会員の皆様には部会運営にご協力いただき感謝申し上げます。

去る５月29日㈮の定期代議員総会において、平成27・28年度の役員を承認いただき活動を開始しました。事務局メンバーは初の役職であり不安を抱えてのスタートですが、役員・理事の方々のお力添えをいただきながら、会員631名の皆様の声に耳を傾け微力ではありますが、心を一つにし本会の運営を担っていく所存です。すでに、実践研究に関する研修会や支援対策委員会の活動も継続して進めているところです。

また、11月27日㈮には第39回岩手県養護教諭研究大会が開催されます。テーマを「養護教諭の特質を探求する」とし、午前は養護教諭の専門誌にも連載されております国士舘大学法学部教授入澤充先生をお招きし「学校事故と法的責任～危機管理における養護教諭の役割～」と題してご講演をいただきます。午後は「危機管理における養護教諭の役割」というテーマのもと、４人の先生方をシンポジストにお迎えし、シンポジウムを開催する予定です。さらに、「学校保健安全法施行規則の一部改正等に伴う健康診断の変更点と留意点」と題し、岩手県スポーツ健康課指導主事高橋雅恵先生より短い時間ではありますが、法改正のポイントをお話いただきます。日頃の児童生徒の対応をもう一度見直し、命と健康を守る最前線にいる私たち養護教諭の役割を皆様とともに再認識できる貴重な時間となることを願いながら準備を進めております。ぜひ多くの会員の皆様の参加をお願いいたします。

終わりに、私たち養護教諭自身、余裕を持って児童生徒への対応が的確にできるよう自己の健康管理に留意していただくとともに、会員の皆様には引き続きご協力とご支援をお願い申し上げます。

《東日本大震災支援対策委員会より》

岩手県学校保健会養護教諭部会
東日本大震災支援対策委員長　**石　橋　寿　子**

今年度で本委員会は、発足から５年目となりました。岩手県の保健室の状況及び養護教諭のニーズは変化し、多様になってきていると感じております。

昨年度、「東日本大震災に係わる会員の皆様の現状伺い」へ回答していただいた方のうち、49％の方が困り感があると回答しており、勤務地域（内陸／沿岸）と困り感（あり／なし）には有意差があることが明らかになりました。

今年度も、会員の皆様から『会員の声』を募る活動、学校訪問を行う活動等を計画しております。学校現場や子供たちの状況、保健室の様子について、会員の皆様から提供いただいた情報を記録に残して参りたいと思います。

また、会員の方から「養護教諭の視点から、地域や学校に合った災害への備えや取り組みを続けることが大切だ」という声をいただいたことから、11月に開催される岩手県養護教諭研究大会では、今年度も各学校で災害に備えて取り組んでいる様子を展示紹介するブースを設ける予定です。

平成25年２月岩手県学校保健会養護教諭部会より発行された「2011.3.11明日へ　つなぐ　とき　いのち　こころ～東日本大震災にかかわる養護教諭の実践報告集～」でも、日頃から備えておきたい物品等が具体的に紹介されております。各学校に配付されておりますので、こちらも改めてご覧いただき、積極的な活用をしていくことを願っております。

今後とも、本委員会の活動にご理解をいただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

定期代議員総会

５月 29 日㈮、いわて県民情報交流センターにおいて、定期代議員総会が開催されました。

冒頭の中沢会長の挨拶では、「アレルギー対応や運動器健診について、研修会や様々なマニュアル等を参考にして対応していただきたい。」と述べられました。

また、スポーツ健康課指導主事兼保健体育主事の高橋雅恵先生より、「東日本大震災津波から５年目を迎え、ますます深刻化する児童生徒の心のケア等のために、先生方が献身的な対応をしていることに心から感謝申し上げます。また、日頃から児童生徒の心身の健康保持増進並びに学校保健活動の充実のため、力を尽くしていただいていることに改めて感謝申し上げます。

近年、肥満やアレルギー・薬物乱用や心の健康等、児童生徒の心身の健康課題は複雑かつ多様化しており、時代とともに養護教諭の役割は変化・拡大しております。養護の普遍的な役割である子ども達に寄り添った対応だけでなく、子ども達が自分の健康を管理し、課題を見つけ改善するための実践力の育成に力を入れていく必要があると考えます。そのためにはより専門的な視点での対応ができるよう、研鑽と実践を重ねる必要があります。県教育委員会としても、昨年度に引続き食物アレルギー対応の研修会・昨年度から全国展開された癌の教育の研修・性的マイノリティーに着目した研修を兼ね合わせた学校保健研修会・本県の課題である肥満対策を協議に加えた岩手県学校保健教育研究大会を開催します。このような機会を捉えぜひ最新の情報を基に児童生徒への指導のみならず、校内体制の構築や教職員への指導等、学校保健の推進にお役立てていただきたいと思います。」と書面にてご祝辞をいただきました。

議事は議長の駒井奈々先生（九戸常任理事）と柴田由美子先生（二戸常任理事）により進められました。協議事項の詳細については、総会資料をご覧ください。

（事務局員　米田　智世）

旧役員　退任挨拶

講演「大震災後の子どものメンタルヘルス～中長期的視点から～」

岩手医科大学神経精神科学講座 講師
いわてこどもケアセンター 副センター長　**八　木　淳　子氏**

１　トラウマと子どもの発達

一般的なストレスと本当に重いストレスの違いをイメージしていくことが必要である。逆境的な小児期の体験が複数あると社会的情緒的認知の障害が起こる。中でも健康を害する行動による順応が起こる。小さい時のトラウマを軽んじて考えることはできない。どんな形で発達に影響を及ぼすのか真剣に考えていく必要がある。また、Bruce Perry は「子どもの脳は発達途上で使われたように発達する」と言っている。トラウマの脳に及ぼす影響は大きい。

２　東日本大震災と子どものトラウマ

Ⅰ型トラウマ（急性単回性）＋外傷性悲嘆＋Ⅱ型トラウマ（長期反復性）というような三重苦を抱えている子どもも少なくない。津波のインパクトだけでなく、その後の影響を見ていく必要がある。

３　いわてこどもケアセンターの取り組み

平成 25 年５月に県の委託を受け３ヶ所で活動している。最初の頃は、未就学児と小学生が非常に多かったが、中学生・高校生が増えてきている。また、ストレス反応が多かったが、発達障害も多くなっている。喪失体験をした子どもに対して周囲の大人は「そっとしておく」という対応をとることが多く、その場合、子どもは自分の思いを言葉にする機会を失うことになる。４年目でやっと自分の思いを出してきたケースもある。

４　トラウマの実際

１）子どものトラウマの見立て

子どもの訴えが必ずしも最も重い症状をさしているとは限らない。回避が強い場合には、「たいしたことはない」ように見えてしまうため、特に注意が必要である。様々な角度から包括的なアセスメントが必要である。

２）トラウマの治療

発達特性を見ながらの治療に加え、子どもと保護者、支援者の信頼関係を大事にしていくこと。あらゆる知識と経験を総動員して模索することが大事になる。

５　まとめ

包括的な子どものケアを進める上で、多職種が連携して、地域のつながりを持ち共通認識で取り組んでいくことが大事になる。チームの一員である養護教諭も自分の心のケアをし、子ども達に寄り添っていただきたい。

平成27年度　全国養護教諭研究大会に参加して

平成 27 年８月６日㈭・７日㈮　富山県富山市
釜石市立鵜住居小学校　**村　上　貴美子**

８月６日㈭・７日㈮の２日間、富山で行われた研究大会に参加して来ました。今年春開通した北陸新幹線「はくたか」は乗り心地良く、富山駅は広くきれいでした。

１日目の記念講演は「生きる力の源、生活習慣の確立は一生もののプレゼント」。富山大学理事・副学長の神川康子氏の 90 分の講演は、あっという間に感じました。「生活リズムを大きく左右する『睡眠・覚醒リズム』の乱れは、子どもの脳（前頭前野）の働きを低下させ、倫理思考力や学習意欲の低下から学力低下を招き、さらには体力や精神力の低下も招くことが懸念される。子どもたちの心身の健康を改善し、本来の成長を保証し、真の『生きる力』を身に付けさせることは、子どもたちに生涯役立つプレゼントをすることと確信する」と話されました。基調講演は、岩﨑信子健康教育調査官から「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割」について、平成 28 年４月１日から施行される児童生徒等の健康診断に関しての改正の概要の中で、成長曲線等を積極的に活用することが重要と話されました。シンポジウムでは、学校保健活動に学校、家庭、地域社会と関係機関が組織的取組をどのように進めていくか、また、これに養護教諭がどのように関わっていくべきか、学校医、校長、養護教諭、教育行政それぞれの立場から実践が報告されました。

２日目は、第３課題において「児童生徒の心身の健康づくりを推進する健康相談の進め方」「心身の健康問題への適切な対応を図るための校内組織、家庭や医療機関等との連携体制づくり」「情報共有と健康問題の把握、問題に応じた健康相談の進め方」について、３人の先生方から自校の取り組みについての実践報告がありました。

本研究大会で得た子どもたちの健やかな成長に関わる養護教諭の大切な役割を今後の保健室経営に生かしていきたいと思いました。

第 48 回 東北学校保健大会

平成 27 年8月4日㈫・5日㈬　福島県福島市
大船渡市立蛸ノ浦小学校　**今　野　喜恵子**

今年の東北学校保健大会は、39 度越えの猛暑日を連日記録更新中の８月４日㈫・５日㈬福島市で行われました。

１　体験発表

○「東日本大震災から本校の復興へのあゆみと保健的な取り組み」
いわき海星高等学校養護教諭　二瓶かほり

○「被災と避難・子どもたちの現状から今後のあり方を考える」
(元)南相馬市立小高中学校養護教諭　井戸川あけみ

３月 11 日東日本大震災の体験発表は、大地震と津波、原子炉からの放射能汚染被害という他地域とは違う心安まる故郷を失い、先の見えない生活を強いられている福島の人たちの苦悩とそこで頑張る子ども達を見守る教師の辛さが伝えられました。

休憩時に演奏された教育課課長のサックス演奏とメッセージ朗読には胸を熱くさせられました。

２　記念講演

「児童生徒の運動器と運動を大切に」
日本体育大学保健医療学部教授　武藤　芳照

冒頭、「高齢化社会に対応するため老人は元気で長生きをし、子どもは元気に育てることが大事」と力説されました。そのためにも「スポーツ（運動）は生涯必要であり、楽しく喜びを得るものでなければなりません。アスレチックス（競闘）と混同し故障・障害を被ったり、ゲームに夢中になることで肥満や生活習慣病に結びつかないよう加減調節してやることが不可欠です。」と話されました。今回、健康診断項目に追加される運動器検診は、学校医と養護教諭の段階でチェックが入る予定ですが、「保健調査票」の内容について複雑化することでご家庭の負担が増えるのではないか気がかりです。健診の結果、体が硬い場合は体育指導の工夫や改善、障害が発見されれば専門医受診を勧めることになりますが、それとともに指導者に対する啓発・指導も必要になってくると思われます。はつらつとしたお話の中にも、この健診を進めていく難しさを感じました。

３　分科会　食に関する指導

～生涯を通じて健やかに生きるための基礎を培う食に関する指導～

１「地域と共にふるさとを見つめる食育」
気仙沼市立唐桑中学校　栄養職員　藤澤麻衣子

総合学習の時間では学校農園で野菜を栽培。地域や仮設の方々から指導を受けてつながりができていて、作る喜びや食べる楽しみ、自分たちで加工・販売まで行う勉強等、生き生きした活動の発表でした。

２「たくましいからだと豊かな心を育む食育実践」
会津美里町立新鶴小学校　養護教諭　木村　理香

農業地域でもあるが各家庭での食事の簡素化傾向や肥満につながる食習慣の変化から、給食センターとうまく連携をとって指導が成功している発表でした。